

10月26日に初雪が観測されて以降ほとんど降らなかった雪は11月24日に網走を一度に冬景色にしてしまいました。札幌では11月としては46年ぶりのドカ雪になったとのこと。ミニレターのはじめに時候の挨拶として気象現象について書くようにしていますが、毎回特異な現象を記載しているように感じます。今年の冬が穏やかなことを望みます。

▼気象現象は農業や水産業にとって生産量を左右する重要な要因であり、水産試験場でも常に気になることです。特に水温情報は漁模様や漁場位置、水産生物の成長・生残・産卵・回遊などに及ぼす影響の大きい要因のひとつになっています。そのためだけではありませんが水温は様々な機関により様々な地点と方法により観測が行われ、その情報が公開されています。私たちはこれらの情報を有効に活用することにより安全でかつ効率的な産業や生活を営むことができます。水産試験場でも海洋で起こる様々なイベントの要因として水温情報などを検討材料としております。今回はインターネットに公開され入手しやすい情報を中心に以下に紹介しますが、他にも多くの情報が検索できます。なお、観測方法がはっきりしない情報もあり、使用に当たっては注意や確認が必要です。

▼気象庁（海洋の健康診断表）：水温のほかに海流、波浪、潮汐、海氷などの情報が北海道周辺などの海域ごとに日別、旬別、月別で入手できます。また、今後の見通しについても予報が掲載されています。ただし、水温などは現在のところ数値データとしては入手できないようです。

▼日本海洋データセンター：海上保安庁により運営され、各海洋調査機関によって得られたデータを一元的に収集・管理・提供しています。水温、塩分、溶存酸素、栄養塩などの海洋化学データ、プランクトンなどの海洋生物データ、流速、潮汐などデータが入手できるようになっています。ただし、調査機関によるデータの提供がない場合は検索されず、最新のデータなどは取得しづらい印象です。

▼マリンネット北海道：道総研水産試験場が所属する3隻の調査船を用いて2ヶ月ごとに行う海洋観測結果を海況速報として掲載しています。全道周辺海域の表層、深度50m, 100m, 200mの各層の水温分布図などが1988年分から閲覧できます。

▼マリンアイ：水温計や流速計などをつけた観測ブイが定点に設置され、観測データがリアルタイムでパソコンや携帯電話で閲覧できます。ブイは能取湖や網走沖、斜里沖、ウトロ沖などに設置されています。ただし、流氷が来る冬期間はブイを回収するためデータが得られないようです。

▼ユビキタスブイ：こちらも水温計をつけた観測ブイを定点に設置し、観測データをパソコンや携帯電話に送信します。ブイは雄武沖、紋別沖にあり、データは5分おきに更新されています。ブイは網走管内だけでなく全道や本州にも設置されているところがあります。（網走水試 上田）